



筑後市の教育全般は

入部登喜男
議員

問 古代より綿々と続いてきた日本独特の思想を、文明開花と又戦後日本国に入ってきた西洋思想が、夜明けの暗闇を朝東から昇ってくる光明が追い払うようにして、西洋思想が現在の教育界に横行しているように思うが、このことについて市長及び学校関係者の考えは。

市長 日本の明治維新を考

を高く評価し世界の中で一

えられた、考え方仕組みで、その価値観も混乱して、これは大変深刻な問題であり、教育こそ礎だと認識し次の世代を担う子供達を立派に育てることが責務だと思っている。

教育長 現在の教育に西洋思想が明治以降又戦後大いに影響を与えているが、西洋から来た、学者の中にはその当時の日本人の識字率

を高く評価し世界の中で一等級であると云われていた。戦前の教育は学校に子供を合わせる教育で、今日では逆に学校を子供に合わせていく相反するような捉え方になった。これは個性に対する認識の誤解、いい個性も悪い個性も一緒に理解され自由奔放になっている。子供の自発性自主性の可否については、バランスの有る精査をする必要がある。

界に冠たる成功をしたと思われ最大のもは、やはり江戸時代から培われていた寺子屋を中心とする民間教育であったという指摘がある。それが昭和20年にあのような悲惨な形で日本の国の社会の一つの終焉を得て、私達の先達は戦後自分達の手で新しい社会づくりをしたのでなく



研修レポート

総務文教委員会

平成17年5月16日～5月18日

◆東京都 杉並区
◆神奈川県 三浦市

視察内容は、東京都杉並区では学区規模適正化について、神奈川県三浦市では経営型自治体運営のための組織等改革について研修を行った。

杉並区では、児童数の減少や施設の老朽化が問題となる中、平成16年「杉並区立小中学校適正配置基本方針」を定めた。適正配置については、適正規模に満たないと予測される学校と適正規模を超える学校を中心に、複数の学校を統合し、既存の校地・校舎を活用していく。

通学区の見直しについては、校舎の改築に合わせて統合する。15年の間に9校程度、どちらかの学校に統合して新しい学校をつくる計画。

学校希望制度については、指定通学区を弾力化し、学校を希望できる制度で、隣接校1校に申請できる。三浦市は水産・観光都市

